

模擬授業研究会の斉藤メモ(2020年1月8日)

授業者：〇〇

範囲：環境環境問題

主な感想・代案

- 様々な面で、事前準備と気遣いを感じる授業でした。生徒が理解しやすいようにと意識した工夫もよく分かり、何度も検討しながら当日を迎えたのだろうということはよく分かります。
- 最初に示した復習的な写真については、色々な意見がでているので言及しません。
- 今日の授業の流れを示した工夫も良いと思います。どちらかというと、模擬授業向き(?)の授業作りの型にはまってしまいがちなところを、独自の問題意識でうまく打破してくれたような気がします。

【コラム】理論と実践の接点

授業を創る上で、例えるならば「ゴールの分からない楽しさを楽しむ推理小説を楽しむような授業」もあれば、「登る山と順路の見通しを立てて、その達成していくプロセスを楽しむ授業」もあると思います。現在のトレンドがどちらだとは言い難いですが、後者の見通しを立てることは、学習者自身が自分で学んでいるプロセスをメタ認知できるという点で優れた方法だといわれます。いわば自分でコントロールした学びのプロセスの中で学んでいるようなイメージです。新学習指導要領でも、単元レベルでの授業設計が強調されています。その中で、必ずしも一時間一時間の導入で注目をひいて、毎回疑問を持たせるような授業ではなく、大まかな目的と方向性を共有した上で、見通しを持って学んでいく授業はとても大切になると思います。

【参考文献】無藤隆・馬居政幸・角替弘規(2017)『無藤隆が徹底解説：学習指導要領改訂のキーワード』

主な感想・代案

- 地球規模での環境問題の解決策を考えるのは、おそらく社会問題の中でも最難関クラスの問題だと思います。(地球温暖化が本当に起こっているかといった話はもはや置いておいて、)誰もが解決すべきだと思うけれども、どうすべきかが難しい。互いの利害が絡む難しい問題です。
 - この問題を生徒に考えさせるアプローチは色々あるとは思いますが、ただ、知識が十分でない状況だと、無知ゆえに選択肢が思いつかない。そういうことが私たち自身多いと思います。地球温暖化が国の利害が絡む問題だと仮に分かったとして、じゃあどうすればよいのかと言えば、問題は複合的。それ故に、生徒に提案的なことをさせるのであれば、かなりの工夫が必要な気がします。新学習指導要領で言えば、「見方・考え方」をどう提示するかということになります。地球環境問題の解決をめぐる、どういう視点で考えれば良いかという視点がもう少し欲しかった気がします。
- ⇒ 例えば私なら、「個人レベルの参加」と「国家レベルの参加」の軸と、「短期的な解決」「長期的な解決」の軸で4象限を作り、それぞれの枠に入りそうな解決策を考えさせるかもしれない。それなら、社会参加と持続可能性といったキーワードとも関連づけられます。その際、ヒントとなりそうな情報や、成功事例もおそらく必要だと思う。例えば、飛行機に乗らないとか、製造過程で他国の自然を破壊する食物を食べないとか、そういう選択肢も個人レベルであるということは、ヒントがないと思いつかないと思うので。
- ⇒ もしくは、利害対立を体感させたり、分析させることを重視するのであれば、ロールプレイ学習をするのはあり得たと思います。本当のところ、「国同士が利害対立」というのは、言葉では分かって、しっくりいかないこともある。予想では、高橋さんはここを理解させることを結構重きを置いていたのかなと思う。だとすれば、環境保護を優先したい先進国、経済発展を優先したい先進国、経済発展を優先したい開発途上国、あと、環境に悪いといわれている産業を軸にしている国、豊かな資源がありそんなにがつつしくなくても良い国、など、バリエーションを持たせて、こういった対立が起きるのかを可視化する。その上で、現代でもそれと似た問題が起こっていると説明するのはありうるのではないかと思います。